

緑化だより

No.63 平成23年8月号



ボタンクサギ 平成22年8月2日撮影

- | | |
|--------------------|-----------|
| ○きのこの味“苦い味のきのこ(2)” | ○季節の花 |
| ○サクラのあれこれ | ○研修会紹介 |
| ○野鳥の世界 | ○お知らせ・ご案内 |

生き物いっぱい 自然いっぱい

広島県緑化センター・広島県立広島緑化植物公園

〒732-0036 広島市東区福田町 166-2

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843

URL <http://ryokka-c.jp> E-mail hiroshima@ryokka-c.jp

きのこの味

苦い味のきのこ (2) チャツムタケ(茶頭茸)

きのこの名前を判別する時、その判断材料の一つになるものとして“味”があります。生のきのこを少しだけかじってみるのです。味が無いものが多いのですが、中には辛いとか苦いとか酸っぱいものもあります。今月も苦い味のきのこをとりあげます。

チャツムタケは秋、マツ、スギ、ヒノキなどの針葉樹の朽木に生える小型のきのこです。傘は茶褐色、表面は滑らかで水がしみ込んだように見え、縁の部分にやや条線をあらわします。柄の上部は淡褐色、下部は暗褐色で白色の綿くず状のささくれがあります。やや強いきのこ臭があります。



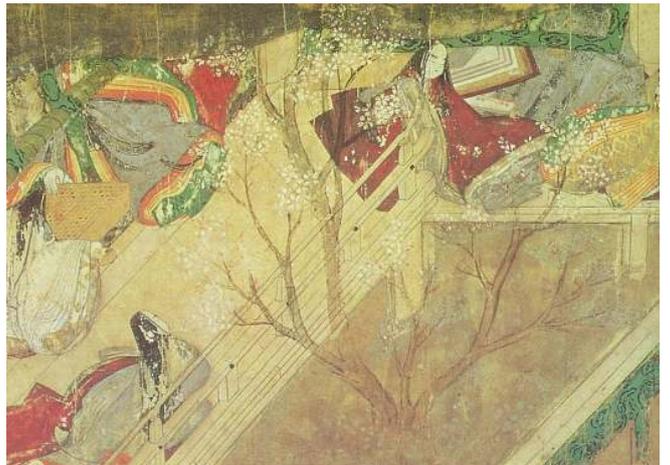
チャツムタケ

以前は、苦味があり食用に不向きとされていましたが、最近、毒成分が含まれていることが判明したので食べないようにしてください。生え方が食用のエノキタケやナラタケに似ているので間違えないようにしてください。

サクラのあれこれ(4)

サクラが日本人に親しまれ、愛されてきたのはいつ頃からなのか見てみましょう。

日本で、サクラの記録が見えるのは、口伝で残された「古事記」が最初で、此花咲那姫(コノハナサクヤヒメ)が登場します。縄文時代は、南方系の民族と共に花ではサクラが主流でしたが、弥生時代には北方系の民族とともにウメがもてはやされる時代が参ります。万葉の時代にはウメの歌が多いのも、そのためかも知れません。中国から文化とともに運ばれたウメは上流階級に入り込み、ウメを愛でることがステイタスシンボルであったのではないかと推察します。明治時代に、追いつけ追いこせと欧米文化を取り入れた姿と重なります。



《源氏物語絵巻》に描かれた桜

平安時代になり、「花は桜」と定着し、古今集、新古今集では数多く見られます。

秀吉の頃はサクラが主流で、花見といえばサクラをさすようになりました。徒然草では、サクラの傍で花見に浮かれる様を田舎者として扱っていますが、兼好法師は遊びの上品さだけではなく、サクラの足元を固める害を見通していたのではないかと感じられます。この頃は一部の八重桜を除いて、サクラはヤマザクラでした。

江戸時代に、江戸の染井村の植木商によって売り出されたソメイヨシノは(売り出した時は吉野桜であったのが、紀州の吉野山のサクラと混同するとのことで後に改称)植えて、10年足らずで花見が出来るため、あっという間に全国に広まりました。

昭和に入ってから、散り際の潔さが軍国日本の時世を反映して、ソメイヨシノはサクラの80%を占めるまでになり、今ではサクラの代名詞になっています。

野鳥の世界

カワセミ

体長は約17cmと、野鳥の中でも小型で、スズメより少し大きい程度です。体は小型でもカラフルで、特に背面のサファイアブルーが、陽射しを受け金属光沢に輝く瞬間の姿や、水面近くの枝にとまって水中の魚の動きを追っているポーズは、大変魅力的です。

カワセミは四季を通じて、一定の地域に生活の場を定めて住みついています。餌になる小魚が集まり、流れが淀む付近の横枝に止まっている姿をよく見かけます。

又、水量の多い池や沼にも住みつき、水面に向かって伸びた枝に止まり、尾羽をピクピク上下させたり、首を上下させている光景を目にすることがあります。

又、その美しさは、ギリシャ神話やイギリス文学の中にもでてきます。

ギリシャ神話のなかで、貞節な妻ハルシオンは、海で遭難し不帰の客となった夫をいつまでも待ち続けた。海神はそれに心を打たれ、二人がいつまでも一緒にいられるようにと、カワセミに姿を変えてやったのです。

カワセミの仲間には、森林地帯に住みついた、全身が赤褐色で鳴き声も特徴のあるアカショウビンがいます。「キョロロロ、ピョロロロ」とよく響く声で、雨模様の時に鳴くため、別名「雨乞い鳥(あめこいどり)」ともいわれます。

又、カワセミより広い河川、池、溪谷に住むヤマセミがいます。体長は38cmくらいでハトよりやや大きく、白と黒の鹿の子模様をしています。長い尾羽と長い冠羽はささくれ立っていて、中ほどが乱れた感じがするのが特徴です。全体的には単調な感じで純日本風と言えそうです。



水中の小魚を窺うカワセミ

季節の花

8月園内で見られる花を紹介します。

7月に比べ数は少ないですが次の花が見られます。

ハナゾノツクバネウツギ、長い名前ですが一般的にはアベリアと呼ばれています。他には、サルスベリ、キョウチクトウ、コシアブラ、ノウゼンカズラ、クズ、ムクゲ、アメリカデイゴ、ウマノスズクサ、センニンソウ、ボタンクサギ、クサギ、キガンピ、リョウブ、エンジュ、カゴノキ、コムラサキ、ニンジンボクなどです。又、ガマズミ、イノキの実が色づき始めています。

キョウチクトウは葉や枝に、ノウゼンカズラは全草、特に花に、アメリカデイゴは樹皮や種子に、ウマノスズクサは全草に、センニンソウは枝や葉に有毒成分があります。口に含んだり、汁がついた手で目をこすったりしないよう充分注意が必要です。



ウマノスズクサ



イノキ

研修会紹介

- 8月7日(日) 『ボタニカルアート教室』 10:00～12:00 学習室 集合
植物を観察しながら精密画を描いてみませんか。
講師: 広島ボタニカルアート・ソサィエティ 会員
- 8月19日(金) 『名水について』 10:00～12:00 学習室 集合
名水のあれこれを名水博士から学びましょう。
講師: 広島国際学院大学教授 佐々木 健
- 8月21日(日) 『夏休み木の実・木の枝工作教室』 10:00～12:00 学習室 集合
木の実木の枝を使って人形などを作って楽しみませんか! 要予約(先着20名)
講師: 手作り工房いっちゃん 隅田 五雄
- 8月24日(水) 『8月の自然探勝』 10:00～12:00 学習室 集合
8月の樹木や花を観察しよう
講師: 植物研究家 清藤 徹

♪☆お知らせ・ご案内☆♪

- エコバック作品展 8月3日(水)～9月11日(日)
レストハウスにて、末永玲子さんによる手作りエコバック、小物の作品を展示します。
- 世界のチョウ展 8月3日(水)～8月21日(日)
アゲハチョウ、シジミの仲間などの標本 30 ケースを展示します。
- 愛鳥週間原画コンクール入賞作品展 8月25日(日)～9月15日(木)
愛鳥週間ポスターコンクールの入賞作品の原画を展示します。
- 季節のきのこ (常設展示)
レストハウスにて、その季節に見られるきのこの実物展示をしています。



モルフォチョウの仲間

◎ 時間延長のお知らせ

8月の土・日曜日・祝日は、午後5時まで開園時間を延長します。月曜日は休園とします。
(但し、レストハウスのご利用は午後4時迄です。)

表紙：ボタンクサギ(牡丹臭木) クマツヅラ科クサギ属

中国南部原産。日本でも暖かい地方では野生化しているところもある。
亜熱帯では常緑、日本では落葉する。
葉をもむと独特の臭いがする。